



みんなの
かなづかひ

2020

はなごよみ

【内容見本】

目次

縦書き原稿に思ふこと	押井徳馬	3
縦書き横書きについて	名賀月晃嗣	7
お隣さんはカナモジカイ	くまくん	11
「国語国字問題Q&A」に答へる	押井徳馬	13
「クローデルの言葉」の出典は？	押井徳馬	38
書評欄	くまくん	40
冴えカノFine鑑賞記	bluesday	42
わすれた頃に	絲	51
歩みの念 第四章	明日楨悠	52
奥様は眞魚	絲	65
原稿を書いてみませんか	80

縦書き原稿に思ふこと

押井徳馬

日本語は書字方向の自由な言語です。伝統的には縦書き、明治以降は、特に英数字と組合せる文章を中心に、左から右に書く横書き（左横書き）も普及していきました。細長いスペースや短文の場合、行が右から左に進む縦書きの名残から、右から左に書く横書き（右横書き）もあり、今でも自動車の右側面にその書き方が残つてゐる事があります。横書きは少しづつ勢力を擴げてゐます。インターネットはウェブサイトもブログもSNSも殆どが横書きです。紙の本についてはまだまだ縦書きも多いのですが、縦書きの本であつても、奥附の発行日は縦書きに漢数字のものがだいぶ減り、横書きに算用数字ばかりになりました。

それでも、文藝書の世界では縦書きの本が圧倒的多数であり、漫画もやはり縦書きの文化が根強く残つてゐます。

日本語の横書きの漫画が全くないわけではなく、四十年位前にサンリオから「リリカ」と云ふ横書きの漫画雑誌が発行された事さへありましたが、かなり例外的な存在です。

今はインターネット時代で、外國人も日本の漫画に興味を持つ時代なのに、それらと相性の良い横書きに移行する雰囲気は全く見られません。外國語に翻譯される時も、縦長の吹出しに澤山の行の横書きの科白が埋め込まれ、ページの進む方向も右から左のまま出版される事が珍しくありません。他の分野ではなかなかかうはいきません。さすが「日本が強い力を持つ文化」です。

■縦組みでは一部の文字を修正する

縦書きの本の原稿を書く時も、PCやスマートフォンで

縦書き横書きについて

名賀月晃嗣

■はじめに

この文章を今読んでゐる人は、縦書きになつてゐる文章を読んでゐると思ふ。しかし、筆者は本稿をスクラエディタで書いてゐるので、書いてゐる今は横書きになつてゐる。計算機のモニタ上では横書きになつてゐるが、組版されるときには縦書きになるものと確信して書いてゐる。さて、今の筆者は、横書きしてゐることになるのか、それとも縦書きしてゐることになるのか。読者諸賢はどちらであるとお考へになるだらうか。プレーンなテキストファイルを作成してゐるから、縦も横もない、テキストファイルの範疇ではそんな概念はない、といふ立場もある。

と、こんな益体もないことを書き連ねることができると、日本語ならではのことであらう。英語なら横に書くに

決まつてゐる。テキストファイルがまさか縦になるとか、

縦でも横でもないとか、思ひもすまい。

筆者がどういふ時に縦書きをするのか、みたいなことを書く前に、そんなことがどうして問題になるのか、といふことについて少し考へてみたい。

■日本語は縦横自在

ウェブ上で歴史的仮名遣を使つてゐると、時に「旧仮名なら縦書きにしろ」みたいな寝惚けたことを言ふ人に出会す。どうせ揚げ足を取らうとするなら、ちゃんと揚つてゐる足を取るべきだと思ふのだが、浅はかな人にはそんなことを望むだけ無駄なのであつた。

浅はかな人のことはさておく。日本語は、といふか、漢

コミックマーケット97 配置結果

あなたのサークルは月曜日 南地区 "マ" ブロック 34aに配置されています。

お隣さんは「カナモジカイ」
 押井徳馬 a.k.a. (一) くまくん



十一月一日
 当落発表日



ところが……



しかも隣!?

▲南館 マ34a ▲南館 マ34b (二)



一) a.k.a.=also known as (またの名を)

二) <https://webcatalog-free.circle.ms/Circle/14807769>

「国語国字問題Q&A」に答へる

押井徳馬

カナモジカイのユズリハ サツキさんによる「国語国字問題Q&A」を読んで、私の意見をまとめてみました。

「A」の部分は必ずしもカナモジカイの公式見解とは限りません。(同意)(反対)に続く私の一言コメントやその後の私の意見も、「正漢字・歴史的仮名遣の擁護派の共通見解」ではなく、私の個人的見解です。「A」の部分は長いので、要約を載せるにとどめたことをお断りします。正式な全文はカナモジカイのウェブサイトで(1)ご確認ください。

1) <http://www.kanamozoi.org/qanda.html>

◆なぜ「ローマ字」でなく、「カナ文字」なのか

Q 漢字を廃止するのなら、国字として、かな文字ではなく、国際性のあるローマ字にしているのでしょうか。

A (要約) 「ローマ字は国際性がある」は見掛けだけで、発音は言語によりバラバラ。カナは日本で発明されはぐくまれてきた伝統文化。伝統があるだけでなく、効率的でもある。ローマ字と比べ文字数が少なく読みやすく、濁点・半濁点も日本語の音の変化を表すのに自然。「文字は、音声ではなくコトバをうつしだすべきもの」。(同意) 「漢字なし」の制約内なら、より読みやすい。(反対) (特になし)

恐らくユズリハさんのおっしゃる意味とは少し異なるのかもしれませんが、私も「文字は、音声ではなく言葉をつしだすべきもの」と信じますし、まさかこんな言葉がカナモジカイのサイトにあったとは驚きました。「国語は漢字かな交じり文が理想だが、漢字が使用できない状況では、

「クロードルの言葉」の出典は？

押井徳馬

日 本人は貧しい、しかし高貴だ。この言葉は、フランスの詩人で元駐日大使だったポール・クロードルの言葉としてあちこちで引用されます。その割には、どこから引用したのか明記されない事の多い「出典不明の言葉」でした。

最近、インターネットでの調査の呼び掛けにより、フランス語と日本語譯それぞれの初出が判明しました。

“詩人大使”ポール・クロードルの「名言」の出典は？

／ Twitter

<https://twitter.com/i/moments/1082567670292144128>

初出はフランスの醫者・文學者であるアンリ・モンドー

ルによる「ポール・ヴァレリー語録」（この本の和譯は私もまだ見付けてゐません）。一九四三年十一月二十三日に開かれたある公爵夫人の夜會において、クロードルが日本人について語つた言葉として、このやうに記されてゐます。

Un peuple pour lequel je souhaite qu'il ne soit jamais écrasé, c'est le peuple japonais. Il ne faut pas que disparaisse une antique civilisation si intéressante. Nul peuple ne mérite mieux sa prodigieuse expansion. Ils sont pauvres; mais nobles, quoique si nombreux.

— Henri Mondor, « Propos familiers de Paul Valéry », Bernard Grasset, Paris, 1957, p. 221.

冴えカノFine鑑賞記

文：blueday

※このテキストは劇場版『冴えない彼女の育てかたFine』に関する、ネタバレを多数含んだ感想や考察的な内容となつてをりますが、その妥当性・正確性についての保証は一切ありません。それらに関する批判は受け止めますが、読み終つてからにして頂ければ幸いです。

といふ訳で、令和元年十月二十六日より全国にて公開となつた劇場版『冴えない彼女の育てかたFine』を観て参りました。

思へば劇場版制作決定が報じられてよりこの方、実に念入りに力の入つた事前の盛り上げ方にはひたすら焦らされつつ、それによつてまたワクワクを駆り立てられるといふ見事な踊らされつぷりの日々でありました。この展開からしてこれはきつとあるだらうと予想はしてをりましたが、

そこに案の定の最速上映実施のお知らせ。これは行かない訳には参りません。喜び勇んで深夜の劇場へ向かひ、上映前の物販で派手に散財し、さうして日付が変はるとともにいよいよ上映開始であります。

……そこから二時間程の、あの時空間は一体何だつたのでせうか。上映はつつがなく終了し、時刻は午前二時頃。なんだかふはふとした気持ちで劇場を出た私は夢見心地で家路に就きました。じわりじわりとこみ上げてくるものを感じながらハンドルを握りアクセルを踏み、気が付けば自宅に着いてをり、そのまま流れで茶を淹れてやれやれとすすりながら一息ついた所で、ハッと、己を包み込むものの正体が、この上ない最高レベルの多幸感である事に思ひ至つたのでした。

いやあ、語彙力を奪はれるつてああいふ状態を言ふんで

歩みの念

文：明日楨悠

四

「ふうちゃん、おいで——」

立籠める湯氣の向うから、千禰が手招きをした。

よちよちと風呂の縁に近づいてくる幼子の体をふたつのしなやかな腕が高く持ち上げる。湯壺がざつと溢れた。

ふうちゃんは今夏で十四になる姉の腕の中でおとなしく湯に浸かつてゐる。湯浴みをする三人の影が水面を揺蕩ふ。千禰は自分が親戚の叔母さんにもなった気分になりながら、姉妹を眺めた。

この広い湯殿は、千禰と若彦が休んでゐる月の里といふ旅籠ものだ。月の里は一家が代々切盛りしてきた老舗ださうで、漁村や海を見晴かす景観と、四階建ての入母屋造

とが見事である。濃やかな心づくしの数々に、千禰も若彦もすっかり寛いでこの宿の家族になりたがってゐる。

「千禰さんもふうちゃんを抱っこしますか」

ふうちゃんをあやしてゐたみづきが明るく小首をかしげる。千禰はあわてて湯から出した手を振った。

「そんな、私はただの客なのに。ふうちゃんだって、嫌がるわ」

「そんなことないよね、ふうちゃん」

みづきが手に抱いたふうちゃんを千禰に近寄せながら呼びかけると、ふうちゃんは千禰に小さな手を伸ばしてきた。みづきの手を介して、千禰はふうちゃんをしっかりと抱き留める。

「まあ、可愛らしい」

「じゃあ、私は髪を洗ってきますね」

みづきは言ひ置いて、さっと湯槽から上がって行った。貝殻が埋もれた装飾の床を、ぺたぺたと足音が遠ざかっていく。

みづきとふうかは、ともに月の里で生まれ育った娘である。天真爛漫に客たちと接するふたりは、皆から親しまれてゐる。ふうかは、昨年さくねんの春に生を受けたばかり。みづきは女将であるお母さんを手伝って、宿のお勤めをしながら時々ふうかの子守もしてゐる。

本当にえらいお姉ちゃんだと千禰は感心しながら、胸に抱いたふうちゃんの頭を撫ぜた。

つやつやと潤った髪の手触りがする。一つになつたばかりの子が、こんなにきれいな緑髪を持つことに千禰は驚いた。

当のふうちゃんは、ぼかんとした表情で湯と肌のぬくもりに安らいでゐる。この髪の艶気はどこかで、と千禰が思ひ巡らせたとき、浴室の向うでざあっと水音がした。頭から湯を被つたみづきの後姿が目に飛びこんできた、その背中を濡髪が黒々と纏はつてゐた。

広間に面した廊下には大きな窓がある。その手前の卓子を挟んだ籐椅子のひとつには若彦が掛けてゐた。千禰は団扇を手立てたてに立つて外を眺めてゐる。空には星々が燦爛ときらめき、淡黄の月も懸かつてゐる。開いた窓から吹きこん

だ夜風が洗ひたての髪をそよがせた。風鈴がちりんと鳴る。丸盆にコップを二つ乗せて、みづきがやって来た。背にはふうちゃんを負ぶつてゐる。

「曹達水をどうぞ」
卓子に置かれたコップを二人はめいめい手に取つた。

「ありがたう」
さっそく若彦が美味しさうに飲んだ。

「ふうちゃんはもうおねむ？」
千禰が覗きこむと、ふうちゃんは姉の背中ですやすやすと寝てゐた。

「うん。もう夢の中」
若彦はコップを片手に窓の外を眺めやる。

「明日は晴れさうだな」
「あ、さうだ。二人とも、明日お発ちになるのは待つた方がいいですよ」

みづきが忠告した。

「何故」
「近く、颱風が来るから。昼間の内は大丈夫でせうけど、きつと夜は大荒れ。もし急がないのならもう一泊したら」

さう言ふとみづきは開いてゐた窓をぴたりと閉ぢた。

「あ、ほら。みづきさん」
千禰がついと窓外の空の一角を指差した。

奥様は眞魚

文・絲

旅行から歸ると、夫が魚になつてゐた。リビングの水槽を見てぎよつとなり、恐る恐る近附いてみた。夫の顔そのものが魚の頭となり、體は魚——何だらう——銀色の光がうねる青魚だつた。「彼」は水中から顔を出し、ばくばくと口を開いた。

「金魚を飲込んでしまつたんだ」

「飲込んだ？ どうして？」

「たぶん……酔つてたんだよ」

彼は逃避にしようとしたま飲む癖があつた。金魚は、夏祭りに彼が掬つたのがたつた一匹。通販で買った、三十センチのガラス容器に寂しく泳いでゐた。目の前の魚は、金魚より一周り大きい程度で——まじまじと見る程に、その禍々しさ、生々しさ、グロテスクさに眩暈を覺えたが、それでも彼に附合つた。

「信じられないわ」

「おれもだよ……ええと、人魚はどうやつて人間になつたんだつけ？」

人魚ですつて！ 笑ひさうになつた。彼には自分がどう見えてゐるんだらう？ 人魚と人面魚、似てはゐるが、イメージは程遠い。

「調べてみてくれよ」

「そんなの醫者か學者にでも見てもらへばいいんぢやない！」

「解體されちまふよ！」

でもできればさうしなかつた。こんな氣持悪いものとはおさらばしたかつた。しかしこれと言つた手立ても無く、律儀に調べはした。

「アンデルセンの童話だと、魔女が人魚の聲と引換へに藥

で人間にしたつて。でも王子と結ばれなかつたから泡になつて……。良い話なんてこれっぽちもないわよ——あ、でも八百比丘尼の話は面白いかも」

「やほびくに？」

「あなたには面白くないかもね」

人魚の肉を……。そこで夕飯の事を思ひ出した。今日は彼に作つてもらふ氣でゐたが——駄目だ、これを前にしたら、とても食欲なんて湧いてこない。

「腹減つたよ」

と、彼。水槽の横にボトルがある。金魚にあげてゐた餌だ。それでいいだらう。ばらばらと振掛ける。

「そんなもの食へるかよお」

「今のあなたはお魚なのよ。キンタに食はせてたんだから」

夫は暫くしかめ面で泳いでゐだか、觀念して餌を食べた。

どうしよう——。テレビでもつけようか、でもつけたら彼の真ん前にあるソファに坐らなきやならないでしよ、ぢやあ洗濯でもする？ それには遅すぎるでしよ、歸つたら何をしようと思つてゐたんだつけ？ さう、新聞を片附けるでしよ、それに……。皿が溜まつてるわ、ごみも八分目だし、あの人ちゃんと出してゐたの？ 雑用をしてゐるうちに手の震へは治まりつつあつたが、頭の後ろからの視線

は感じずじゐられなかつた。彼は餌をやつてから喋らない。喋りにくいのかもしれない。あの……。私を一點に見つめて……。單語を咀嚼するやうに喋る感じ……。もう私はあれを見る事ができないかもしれない。いや、その必要すら無い。魚と會話する必要なんて……。ある？

風呂に入つて寢室に——「彼」の存在の外に出ると、ほととした。ぱたんと前からベッドに倒れる。ふはりと臭ふ夫の體臭。やだ。あの人、シーツを換へてゐないんだわ。苛立ちが募つた。が、自分しかゐない事を思ひ出し、落著く。重い體を起し、シーツを引つ剥がし、新しいものと交換する。それだけで重労働のやうに感じる。剥がしたシーツは、悩みはしたが、クローゼットに放り込んだ。臭い枕は、ペランダに投げ捨てた。ざまあみろ——明日夫が——人の姿で——現れたとして、彼には怒る才が無いのだ。何を躊躇してゐたんだらう！

さすがにぐつすりとはいかなかつたが、夫の存在を縮小せたかと思ふと、「家で寝る」といふ事が、それ程の絶望を帯びなくなつたやうな氣がした……。

目が覺めると、蒲團ふとんの中で手足をいつぱいに伸ばした。外は薄暗い。つい眉を寄せるが、もう外の明るさで機嫌を損ねる事は無い。あと少し眠りたい。それを邪魔する物音

原稿を書いてみませんか

中

国語の表記に、中国本土とシンガポールでは使はれる「簡体字」と、台湾や香港では使はれる「繁体字」があるのと同様、日本語の表記にも漢字と仮名についてそれぞれ二種類あります。「正漢字」（いはゆる「旧漢字」と「新漢字」、「正仮名遣」（いはゆる「旧仮名遣」、「歴史的仮名遣」と「新仮名遣」（「現代仮名遣い」のこと）です。

「正漢字」や「正仮名遣」は、絶滅した国語表記ではありません。過去文献の引用、短歌や俳句をはじめとした芸術において、現代でも細々と使はれてゐます。

現代において、「正漢字」「正仮名遣」を読んだり書いたりする方には、様々な立場の方がいらつしやいます。

- ・過去文献の引用に限り正字や正かなで書きたい
- ・短歌や俳句に限り正かなで書きたい

・ブログや芸術作品等を正字や正かなで書きたい

・今のところ書く事はしないが、正字や正かなで読みたい

本誌は、そんな皆さんを応援する為に、「全頁歴史的仮名遣（固有名詞や引用文は除く。また、漢字は正漢字を歓迎するが新漢字も可）の同人誌」として毎年発行してゐます。

原稿募集のお知らせ

「正漢字」「正仮名遣」は、読むだけでも十分楽しめますが、実際に書いてみると更に楽しめますし、学ぶ近道でもあります。皆さんも試してみませんか。

『「正字正かな」で原稿を書いても印刷を断られたり、『新字新かな』に直されたりする』のが残念ながら当り前の現

在、本誌は『正漢字』『正仮名遣』の原稿がそのまま掲載される」のが「当り前」の、謂はば「解放区」です！

募集内容

- ・ 毎号のテーマに基づく随筆や論攷等（テーマ投稿）
- ・ 漢字や歴史的仮名遣について、国語国字問題について
- ・ コンピュータで正漢字や歴史的仮名遣を使ふテクニク
- ・ 歴史的仮名遣による詩歌、小説、随筆、漫画等の作品
- ・ 半ページ〜四分の一ページ程度の短いコラム

国語問題に関する記事が多く集まる本誌ですが、テーマや国語問題に関係しない記事もむしろ歓迎いたしますので、お気軽にお書きください。

毎年秋発行、次号×切は、二〇二〇年十月頃を予定してゐます。次号のテーマはウェブサイトで発表予定です。

なほ、執筆者や校正・組版等の作業を手伝ってください。方方には、完成した冊子を一冊無料進呈致します。

投稿方法

本誌への投稿には、グループへの入会や会費のお支払い

は必要ありません（逆に、原稿料もお出しできません）。ただし、スムーズな聯絡の為に、原則として電子メールアドレスをお持ちの方に限定致します。「はなごよみ」のメールアドレスまで、ご遠慮なくメールでお問合せください。原稿も、メール本文に書いていただくか、メールにファイルを添付してお送りください。なほ、記事に関するご確認のため、編輯・校正・組版担当者にメールアドレスをお伝へ致しますので、あらかじめご諒承ください。

また、スムーズな編輯・校正の為、以下の情報もメールでお知らせください。

① ペンネーム

- ② 掲載ご希望の方は「Twitter ID」や電子メールアドレス（読者からの聯絡先として、なるべくご記入ください）
- ③ ジャンル（解説、評論、小説、詩歌、随筆、漫画等）
- ④ 内容（国語教育に関するエッセイ、学園もの小説等）
- ⑤ 未完成の場合は予定文字数（文字数か原稿用紙換算）
- ⑥ 漢字、仮名遣

（正字正かな・新字正かな・広辞苑前文方式・新字新かな）

正字正かな 「櫻色のバッグを持つてゐる」

新字正かな 「桜色のバッグを持つてゐる」

広辞苑前文方式 「桜色のバッグを持つて居る」

新字新かな

「桜色のバッグを持つている」

↓ 「桜色のバッグを持つてゐる」

に直して印刷

(一)希望により新字正かなではなく正字正かなにも直せます)

⑦捨て仮名(ひらがなカタカナとも使ふ・カタカナのみ

使ふ「推奨」・使はない)

ひらがなカタカナとも 「桜色のバッグを持つてゐる」

カタカナのみ使ふ 「桜色のバッグを持つてゐる」

使はない 「桜色のバッグを持つてゐる」

一)新字正かな兼新字新かなの事。ひらがな・カタカナとも捨て仮名使用推奨。言葉選びの難易度が高いので、歴史的仮名遣に十分慣れた人向けです。

一)小ざこ「ゃ」「ぢ」「ょ」「っ」の事。

ファイル形式

文章は原則としてテキストファイルでお送りくださるか、メール本文にそのまま書きください。ワードや一太郎等ワープロソフトのファイルでも構いませんが、文章校正機能を使用可能なワードまたはLibreOfficeを推奨します。

くの字点(くゝ・く)は「/」「/」「/」で代用しても構いません。「正字正かな」をご希望の方は、コンピュータの一般的な文字コードに無い文字(二点之繞や「示」の形の示偏の漢字等)は新字で代用するか、注意書きを附加してください。編輯時に、フォントに字形のある範囲で、印刷用の正しい字形に直します。

写真やイラストや図ですが、残念ながらカラーは出ません(口絵を除く)。画像ファイルは、原則として文章とは別にお送りください(ワードで位置決めした内容をそのまま使ふのではなく、こちらで組版ソフトを使って組み直すので、元ファイルが必要です)。また、可能な範囲で、縮小されてゐない、なるべく大きなサイズをご用意ください。なほ、本誌のサイズはA5版です。詳しくはメールでお問合せください。

著作権について

皆様の原稿は、「同人誌(紙版および電子書籍版)」の原稿として「および」必要に応じ、同人誌頒布の際の内容見本として「使用しますが、作者に許可をいただかない限りは、それ以外の目的(他の本の原稿に転用する等)では使用しません。

また、前述の目的に限って、皆様の原稿を使わせていただきますが、原稿の著作権そのものを譲渡していただくといふ意味ではありません。後でご自分の原稿を（ウェブサイトに載せたり個人誌・同人誌・商業誌に載せる等）どう活用していただくかは、お任せします。

それでは、皆さんの作品を心よりお待ちしております。



本のDIYで……更に表現の自由！

従来は……



~~正漢字・
歴史的
かなづかひ~~

→
修正

新漢字・
現代
仮名遣い

で書くのは
自由でも

に直して
出版します

これからは……



正漢字・
歴史的
かなづかひ
(本誌はこちらが原則)

新漢字・
現代
仮名遣い

どちらもパソコンで自己出版